



### ③ 幼稚園専門教科問題の解答について（注意）

1. 解答はすべて、別紙のマークシートに記入すること。
2. マークシートは、電算処理するので、折り曲げたり、汚したりしないこと。また、マーク欄はもちろん、余白にも不要なことを書かないこと。
3. 記入は、HBまたはBの鉛筆を使って、ていねいに正しく行うこと。（マークシート右上の記入方法を参照）消去は、プラスチック消しゴムで念入りに行うこと。
4. 名前の記入 フリガナ、名前を記入すること。
5. 教科名の記入 教科名に「幼稚園」と記入すること。
6. 受験番号の記入 受験番号欄に5けたの数で記入したのち、それをマークすること。
7. 解答の記入 ア. 小問の解答番号は1から65までの通し番号になっており、例えば、25番を 

25
----

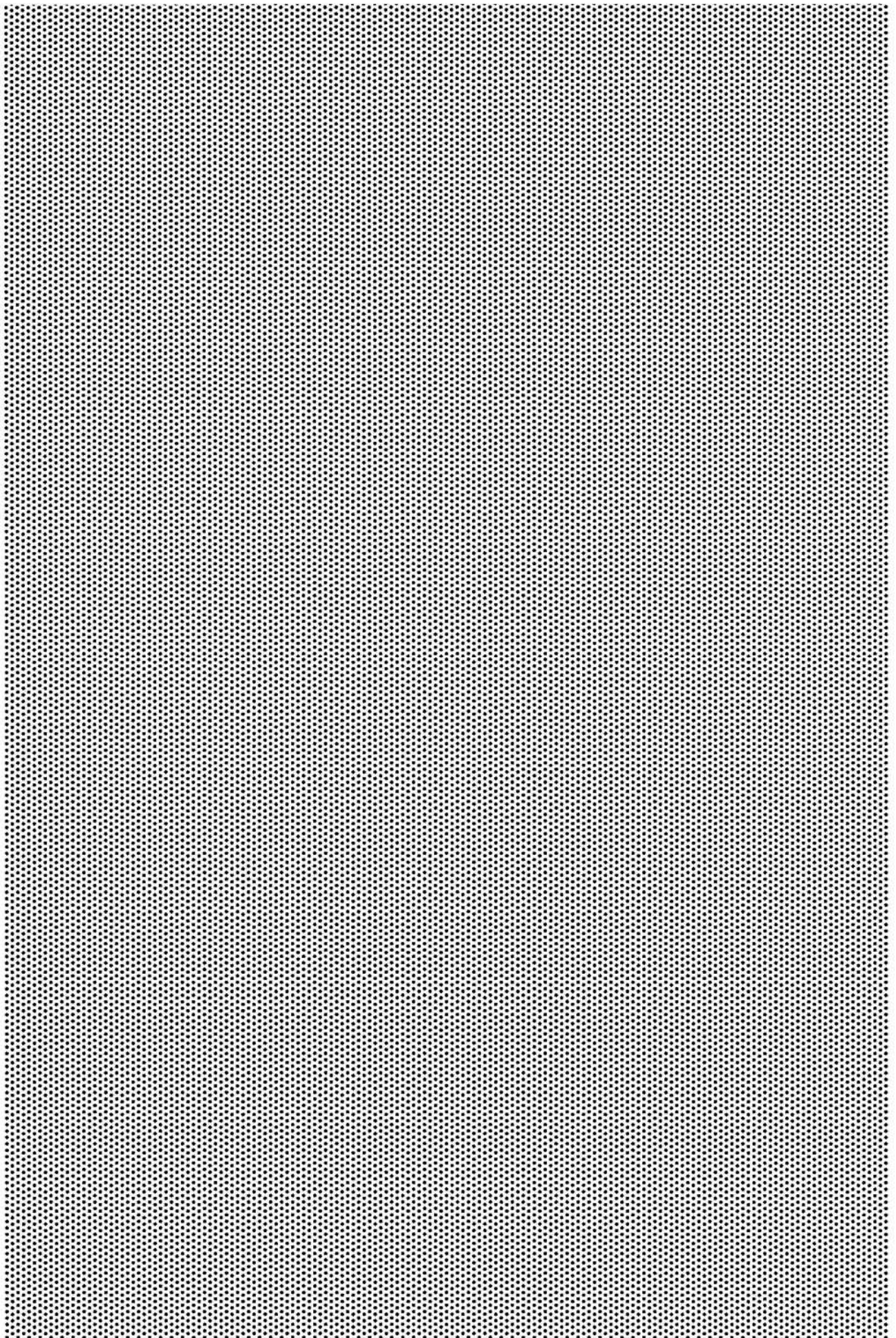
 のように表示してある。  
イ. マークシートのマーク欄は、すべて1から0まで10通りあるが、各小問の選択肢は必ずしも10通りあるとは限らないので注意すること。  
ウ. どの小問も、選択肢には①、②、③……の番号がついている。  
エ. 各問いに対して一つずつマークすること。

（マークシート記入例）

フリガナ	コウベ タロウ	教科名	幼稚園
名前	神戸太郎		

受験番号					小問番号	解答記入欄	小問番号	解答記入欄	小問番号	解答
						1 - 25		26 - 50		51
1	2	3	4	0	1	●	26	○	51	○
○	○	○	○	○	2	○	27	○	52	○
○	○	○	○	○	3	○	28	○	53	○
○	○	○	○	○	4	○	29	○	54	○
○	○	○	○	○	5	○	30	○	55	○
○	○	○	○	○	6	○	31	○	56	○
○	○	○	○	○	7	○	32	○	57	○
○	○	○	○	○	8	○	33	○	58	○
○	○	○	○	○	9	○	34	○	59	○
○	○	○	○	○	10	○	35	○	60	○
○	○	○	○	○	11	○	36	○	61	○

数字で記入……



【1】 次の（１）～（５）は、法令の条文である。（ア）～（オ）にあてはまる適切な語句をそれぞれ①～⑤から選び、番号で答えよ。

（１） 教育基本法第9条

法律に定める学校の教員は、自己の崇高な（ア）を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない。

- ① 使命    ② 目標    ③ 役割    ④ 職務    ⑤ 精神

（２） 日本国憲法第26条

すべて国民は、法律の定めるところにより、その能力に応じて、ひとしく教育を受ける（イ）を有する。

- ① 権利    ② 機会    ③ 義務    ④ 支援    ⑤ 使命

（３） 学校教育法第22条

幼稚園は、義務教育及びその後の教育の（ウ）を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする。

- ① 意欲    ② 基盤    ③ 基礎    ④ 習慣    ⑤ 心構え

（４） 学校教育法施行規則第38条

幼稚園の教育課程その他の保育内容については、この章に定めるもののほか、教育課程その他の保育内容の（エ）として文部科学大臣が別に公示する幼稚園教育要領によるものとする。

- ① 到達点    ② 目標    ③ 標準    ④ 事例    ⑤ 基準

（５） 幼稚園設置基準第3条

一学級の幼児数は、（オ）人以下を原則とする。

- ① 25    ② 30    ③ 35    ④ 40    ⑤ 45

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)
1	2	3	4	5

【2】 次の(1)～(5)は、幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)「第2章 ねらい及び内容」に述べられている5領域の「ねらい」の一部である。(ア)～(オ)にあてはまる適切な語句を①～⑩から選び、番号で答えよ。

- (1) 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、(ア)をもって行動する。
- (2) 身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や(イ)をもつ。
- (3) 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する(ウ)を豊かにする。
- (4) 人の言葉や話などをよく聞き、自分の(エ)や考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。
- (5) いろいろなものの(オ)などに対する豊かな感性をもつ。

- ① 表現            ② 感覚            ③ 思いやり        ④ 美しさ        ⑤ 見通し  
⑥ 経験したこと ⑦ 知識            ⑧ 信頼感        ⑨ 意欲            ⑩ 気持ち

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)
6	7	8	9	10

【3】 次の文は、幼稚園教育要領解説（平成30年3月 文部科学省）のうち、小学校教育との接続に当たっての留意事項に関する記述である。適切なものを①～⑨から5つ選び、番号で答えよ。

- ① 発達や学びは連続しており、幼稚園から小学校への移行を円滑にする必要がある。
- ② 幼稚園から小学校への円滑な接続には、幼稚園で小学校教育の先取りをすることが大切である。
- ③ 幼稚園教育において、幼児が小学校に就学するまでに、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うことが重要である。
- ④ 小学校への入学が近づく幼稚園修了の時期には、皆と一緒に教師の話を聞いたり、行動したり、きまりを守ったりすることができるように指導を重ねていくことも大切である。
- ⑤ 共に協力して目標を目指すということにおいては、幼児期の教育から見られるものであり、小学校教育へとつながっていくものである。
- ⑥ 幼稚園と小学校では、子供の生活や教育方法を同じくして、一貫した教育を行うことが必要である。
- ⑦ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、幼稚園と小学校の教師が共に幼児の成長を共有することを通して、幼児期から児童期への発達の流れを理解することが大切である。
- ⑧ 子供の発達を短期的な視点で捉え、互いの教育内容や指導方法の違いや共通点について理解を深めることが大切である。
- ⑨ 就学前の幼児が小学校の活動に参加するなどの交流活動は、意味がなく幼児の負担になるだけである。

11	12	13	14	15
----	----	----	----	----

- 【4】 次の文は、「発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン」（平成29年3月 文部科学省）における個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成に関する説明である。（ア）～（オ）にあてはまる適切な語句をそれぞれ①～⑤から選び、番号で答えよ。

教育上特別の支援を必要とする児童等の適切な指導及び必要な支援に当たっては、個別の教育支援計画に記載された一人一人の（ア）ニーズや支援内容等を踏まえ、当該児童等に関わる教職員が（イ）、学校生活や各教科等における指導の目標や内容、配慮事項等を示した計画（個別の指導計画）を作成しつつ、必要な支援を行うことが有効です。

校長は、（ウ）も含む全ての教職員が作成する可能性があり、必要性があることを、各教職員に日頃から意識させておくことが重要です。

個別の教育支援計画や個別の指導計画はあくまで児童等の支援や指導に関する関係機関との（エ）のためのツールであり、作成すること自体が目的ではありません。

実施、（オ）、改善を繰り返すことが最も重要です。

支援の実施状況については、校内委員会において、定期的に見直しを図り、変更があった場合は随時加筆、修正を行うことが大切です。

- （ア） ① 学習上の                      ② 心理的                      ③ 社会的  
       ④ 社会生活上の                  ⑤ 教育的
- （イ） ① 独立して                      ② 秘密を守りながら        ③ 単独で  
       ④ 保護者と連携し              ⑤ 協力して
- （ウ） ① 特別支援学級担任            ② 通常の学級の担任        ③ 特別支援教育コーディネーター  
       ④ 養護教諭                      ⑤ 医師
- （エ） ① 連絡                              ② 連携                      ③ 協力  
       ④ 協働                              ⑤ 意見交換
- （オ） ① 計画                              ② 検証                      ③ 振り返り  
       ④ チェック                      ⑤ 評価

（ア）	（イ）	（ウ）	（エ）	（オ）
16	17	18	19	20

【5】 次の文は、『『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育』（平成31年3月31日改定 文部科学省）の第3章 学校における安全管理 第4節 災害発生時の対応（火災、地震・津波災害、火山災害、風水（雪）害等の気象災害、原子力災害等発生時）に述べられているものである。（ア）～（オ）にあてはまる適切な語句を①～⑩から選び、番号で答えよ。

それぞれの災害の特質に応じた（ア）が講じられるよう、関連機関との連絡体制や情報収集体制を含めて、災害対応のための組織（学校防災本部等）を設置し、通報連絡、初期消火、避難誘導、搬出、警備、救護などの役割分担に応じて、全教職員が対応できるようにしなければならない。そのためには、防災体制の役割分担はもちろんのこと、消火器等防災設備の配置や使用法、緊急連絡方法、避難方法や避難場所、非常持ち出し物など、体制の整備及び対処法についても教職員の（イ）を得ておく必要がある。教職員の出張や休日中の（ウ）の場合などでは、あらかじめ分担している教職員が不在のことも考えられる。このため、当初人数が少ない場合には複数班に所属していくつかの役割を兼務させるなど、（エ）な教職員の数、被害の状況に応じて（オ）することが可能な緊急の応急的指揮システムの整備を図る必要がある。また、避難指示等の指揮は管理職や防災担当者が不在の場合でもできるように、代行順位を明らかにしておくことが必要である。

- ① 経験豊富    ② 防災計画    ③ 柔軟に対応    ④ 合同訓練    ⑤ 的確に行動  
 ⑥ 安全措置    ⑦ 対応可能    ⑧ 共通理解    ⑨ 非常配備    ⑩ 勤務時間外

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)
21	22	23	24	25

【6】 次の文は、「幼児理解に基づいた評価」（平成31年3月 文部科学省）第1章 幼児理解に基づいた評価の意義 1 幼児理解と評価の考え方に述べられているものである。（ア）～（オ）にあてはまる適切な語句を①～⑩から選び、番号で答えよ。

幼児期にふさわしい教育を行う際にまず必要なことは、一人一人の幼児に対する理解を深めることです。

幼稚園における保育とは、本来、一人一人の幼児が教師や多くの幼児たちとの（ア）の中で、周囲の環境と関わり、発達に必要な経験を（イ）ていけるように援助する営みです。そのために、教師は幼児と（ウ）ながら、その幼児が今、何に興味をもっているのか、何を（エ）しようとしているのか、何を感じているのかなどを（オ）ていかなければならないのです。幼児が発達に必要な経験を得るための環境の構成や教師の関わり方も幼児を理解することによって、初めて適切なものとなるでしょう。すなわち、幼児を理解することが保育の出発点となり、そこから、一人一人の幼児の発達を着実に促す保育が生み出されてくるのです。

- ① 捉え続け      ② 自ら得      ③ 学び続け      ④ 積み重ね      ⑤ 実現  
⑥ 豊かな生活      ⑦ 一緒に遊び      ⑧ 集団生活      ⑨ 生活を共にし      ⑩ 工夫

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)
26	27	28	29	30



【7】 次の（ア）～（オ）の説明について、適切でないものをそれぞれ①～④から選び、番号で答えよ。

（ア）ラディッシュ

- ① ラディッシュは、カブの仲間である。
- ② 種をまいて3、4日で発芽する。傷んだ葉は間引きするとよい。
- ③ 梅雨から真夏の間は虫が発生しやすくなる。
- ④ 5mmほどの浅い溝を作り、タネとタネの間を1cmくらい開けてすじまきにする。

（イ）コマツナ

- ① コマツナは、アブラナ科の植物である。
- ② 寒さ、暑さに強く1年中栽培できる。
- ③ 排水のよい土壌にし、できるだけ乾燥させるとよい。
- ④ 冬以外は、1～1.5ヶ月ほどで収穫できる。

（ウ）ミニトマト

- ① 南米が原産のナス科の植物である。
- ② 1日の平均気温が20度くらいがまきどきである。
- ③ 土は深さ30cm位まで掘り、種は一箇所に3粒ずつまき、隠れる程度に土をかぶせる。
- ④ できるだけ日光を避け、日陰に植えるとよい。

（エ）トウモロコシ

- ① 南米が原産のイネ科の植物である。
- ② 土が乾いたら水をあげて育てれば、種はひと月ほどで発芽する。
- ③ オバナが咲いてからメバナが咲く。メバナの毛1つひとつがトウモロコシの実になる。
- ④ 茎のてっぺんに咲いているのがおしべで、もじゃもじゃのひげがめしべである。

（オ）イチゴ

- ① バラ科の多年草である。
- ② 実の周りがある一粒一粒が種であり、種をとって育てるのが望ましい。
- ③ 実がデリケートなので、雨よけのカバーをつけるなどで対応し、実が熟したら次々に収穫するとよい。
- ④ 1年中葉を茂らせ、寒さに強く越冬可能である。

（ア）	（イ）	（ウ）	（エ）	（オ）
31	32	33	34	35

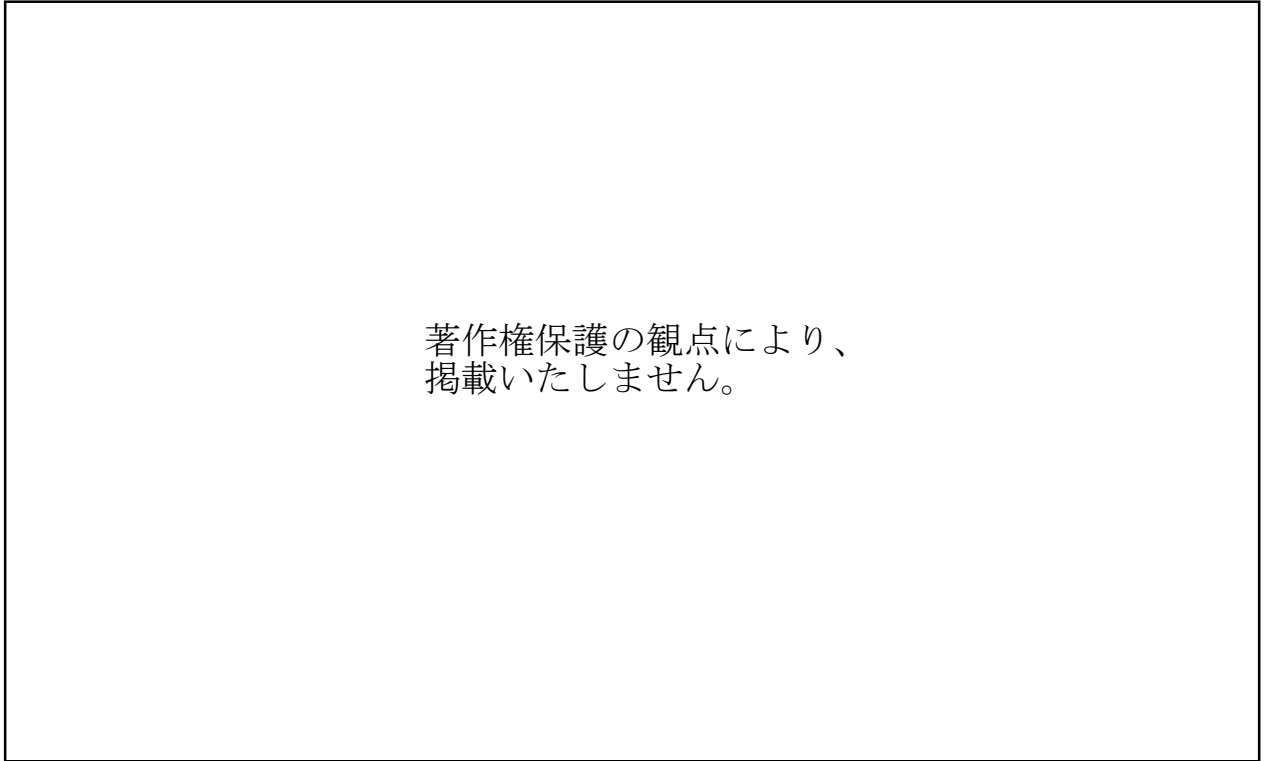
【8】 次の（ア）～（コ）は絵本の一節である。それぞれの題名を①～⑩から選び、番号で答えよ。

著作権保護の観点により、  
掲載いたしません。

- ① シンデレラ                      ② プレーメンのおんがくたい                      ③ あかずきんちゃん  
④ はだかのおうさま                      ⑤ うらしまたろう                      ⑥ スーホの白い馬  
⑦ かさこじぞう                      ⑧ さるかに                      ⑨ だいくとおにろく  
⑩ ちからたろう

（ア）	（イ）	（ウ）	（エ）	（オ）	（カ）	（キ）	（ク）	（ケ）	（コ）
36	37	38	39	40	41	42	43	44	45

【9】 次の楽譜について、下の（1）～（5）の問いに答えよ。



（1） この曲の題名は何か、①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① あめふり    ② ゆき    ③ ことりのうた    ④ おつかいありさん    ⑤ あらどこだ


46


（2） この曲は何分の何拍子か、①～⑤から選び、番号で答えよ。


- ① 2分の2拍子    ② 4分の2拍子    ③ 4分の3拍子  
④ 4分の4拍子    ⑤ 8分の6拍子


47


(3) 楽譜の(ア)にあてはまる伴奏を①～⑤から選び、番号で答えよ。

① 

② 

③ 

④ 

⑤ 

48

(4) 楽譜の(イ)の記号の意味を①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 特に強く
- ② 強く直ちに弱く
- ③ 強くしながらだんだん遅く
- ④ だんだん強く
- ⑤ やや強く

49

(5) 楽譜の(ウ)(エ)(オ)に適切なコードネームの組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

	(ウ)	(エ)	(オ)
①	G	F	C
②	Am	C	F
③	F	C	C
④	C	F	F
⑤	C	G7	F

50

【10】造形活動に用いる材料や用具について、次の問いに答えよ。

(1) 粘土の種類について、下表の(ア)～(エ)にあてはまる最も適切なものを①～⑥から選び、番号で答えよ。

粘土の特徴	硬化性	粘土の種類
温めると柔らかくなり、混色も可能である。冷たいと硬くつくりにくいので、ぬるま湯などに入れるとよい。夏期は軟化しやすいので保管に注意する。	非硬化	(ア)
軽くて細かい部分もつくり込め、木やプラスチック等と組み合わせることができる。乾燥後に絵の具で着色できる。乾燥すると再度作ることが難しい。	硬化	(イ)
軟らかい感触で、低年齢児から楽しめる。また、誤って口に入れても無害である。保存ができないため、冷蔵庫で保管し、3日程度で使い切ることが必要である。	硬化	(ウ)
色彩豊かで混色可能である。自然乾燥で硬化するものもあれば、オーブンの加熱(120～130度を20～30分)で硬化するものもある。仕上がりはプラスチックのようになる。	硬化	(エ)

- ① 油粘土      ② 小麦粉粘土      ③ 紙粘土      ④ 陶芸用粘土      ⑤ 樹脂粘土  
⑥ 蜜ろう粘土

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)
51	52	53	54

(2) 次の用具の扱いについて、適切でないものを①～④から選び、番号で答えよ。

- ① カッターナイフで画用紙などを切るときは、刃を1～2目盛り程度を出して使用する。  
② 両刃のこぎりの横引きの刃は、木目に平行に切る際に用いる。  
③ げんのは、打ち終わりに近づいたら膨らみのある面で打ち込む。  
④ 版画を刷るときはバレンをしっかりと握り、力を入れて円を描くように滑らせる。

【11】 次の文は、「幼児期運動指針」（平成24年3月 文部科学省）に述べられているものである。適切なものを①～⑨から5つ選び、番号で答えよ。

- ① 幼児期は、生涯にわたる運動全般の基本的な動きを身に付けやすく、体を動かす遊びを通して、動きが多様に獲得されるとともに、動きを繰り返し実施することによって動きの洗練化も図られていく。
- ② 幼児期における運動については、適切に構成された環境の下で、幼児が自発的に取り組む様々な遊びを中心に体を動かすことを通して、生涯にわたって心身ともに健康的に生きるための基盤を培うことが必要である。
- ③ 遊びとしての運動は、大人が一方的に幼児にさせるのではなく、幼児が自分たちの興味や関心に基づいて進んで行うことが大切であるが、安全の確保のため、幼児が自分たちで考え工夫し挑戦することは避けるようにすることが求められる。
- ④ 幼稚園、保育所などに限らず、家庭や地域での活動も含めた一日の生活全体の身体活動を合わせて、幼児が様々な遊びを中心に、毎日、合計120分以上、楽しく体を動かすことが望ましい。
- ⑤ 幼児期は運動機能が急速に発達し、体の基本的な動きを身に付けやすい時期であることから、多様な運動刺激を与えて、体内に様々な神経回路を複雑に張り巡らせていくことが大切である。
- ⑥ 友達と一緒に楽しく遊ぶ中で多様な動きを経験できるよう、幼児が自発的に体を動かしたくなる環境の構成を工夫すること。
- ⑦ 幼児の動きに合わせて保育者が必要に応じて手を添えたり見守ったりして安全を確保するとともに、固定遊具や用具などの安全な使い方や、周辺の状況に気付かせるなど、安全に対する配慮をすること。
- ⑧ 幼児が体を動かす経験は、家庭や地域では難しく期待できないので、幼稚園や保育所が責任をもって保障することが大切である。
- ⑨ 遊びを楽しく行うだけでは、多様な動きを獲得することができないので、幼児期に身に付けるべき動きを保育者が指導し練習する時間を設けることが必要である。

56	57	58	59	60
----	----	----	----	----

【12】 次の（ア）～（オ）の幼児教育に関する文と関係の深い人物として適切なものを①～⑩から選び、番号で答えよ。

（ア） チェコの牧師であり、教育思想家である。著書『大教授学』は、世界最初の教育学の体系的書物であるといわれている。幼児教育を重視し、『母親学校の指針』によって幼児教育のあり方を著した。言葉で教える以前に、物そのものへ目を向けさせ、世界の多様性と普遍性を理解させることを重視し、『世界図絵』は世界で最初の絵入り教科書として知られている。

（イ） 明治から昭和初期にかけて活躍した教育者である。子供には難解な歌詞がついた歌曲に振り付けを加えた形式主義的な当時の遊戯に疑問を呈し、子供にふさわしい音楽を使用し、子供に合った振り付けをした「律動遊戯」を創作し、普及に努めた。

（ウ） 露天保育を提唱し、「家なき幼稚園」を設立した。「家なき幼稚園」は、園舎をもたず、野外で保育を行うことを特徴とした。自然環境こそが最高の保育環境と考え、自然物や子供同士の関わりの中で子供たちの遊びが生まれ、発展していくことを重視した。

（エ） イタリアで初の女性医学博士を取得し、発達遅滞児の治療に携わった。その中で、医学と教育学を統合することの重要性に着目し、独自の教育法を見出した。この方法を健常児に実践するため「子どもの家」を創設した。子供は発達する力を内部にもっているという考えに基づき、教育者は子供の環境を整え、子供をよく観察し、子供の自由な自己活動を尊重し援助することが大切であるとしている。

（オ） 著書『幼稚園保育法真諦』の中で、「誘導保育」を提唱した。子供のありのままの生活を重視し、保育者が子供の利他的で断片的な生活に中心を与え系統づけて導くこと、つまり「誘導」することで子供の生活の充実が図られるような援助を重視した。

- ① 倉橋惣三            ② 橋詰良一            ③ 東基吉            ④ 和田実            ⑤ コメニウス  
⑥ モンテッソーリ    ⑦ シュタイナー       ⑧ 土川五郎       ⑨ デューイ       ⑩ ペスタロッチ

（ア）	（イ）	（ウ）	（エ）	（オ）
61	62	63	64	65

